

令和5年度 兵庫県立阪神昆陽高等学校評価アンケート結果（生徒・保護者）

- 1 実施期間 令和6年1月16日（火）～26日（金） 11日間
- 2 回答対象 ①生徒304名/463名（66.0%） 前年度比 1.8%
②保護者103名/463名（26.0%） 前年度比24.0%
- 3 評価段階 4：十分できている
3：おおむねできている
2：あまりできていない
1：できていない
- 4 総合評価 A：達成できている（ $3.5 < A \leq 4.0$ ）
B：できている（ $3.0 < B \leq 3.4$ ）
C：努力を要する（ $1.0 < C \leq 2.9$ ）

区分	評価の観点	生徒			保護者		
		R4	R5	評価	R4	R5	評価
①	教師は、学習活動のねらいを具体的に説明している。	3.3	3.5	A	3.6	3.2	B
②	教師は、いじめの未然防止やいじめが起きた時に適切に対応している。	3.1	3.3	B	3.6	3.2	B
③	教師は、授業で不必要な時にスマホを触っている生徒に対し、粘り強く指導している。	3.2	3.3	B	3.3	3.0	B
④	教師は、生徒の理解に合わせた授業を行っている。	3.3	3.4	B	3.5	3.4	B
⑤	困ったときに相談できるような体制が学校にある。	3.1	3.4	B	3.5	3.3	B
⑥	学校は、地域等の外部人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を提供している。	3.2	3.5	A	3.5	3.4	B
⑦	学校は、授業や行事などで、特別支援学校との共同の学びの場を設けている。	3.3	3.5	A	3.4	3.3	B
⑧	学校は、両校の授業や行事などの取組について、ホームページなどを通じて発信している。	3.1	3.4	B	4.0	3.2	B
⑨	学校は、生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	3.3	3.3	B	3.5	3.2	B
⑩	部活動の顧問は、生徒の主体性、自主性を尊重した部活動の運営を心がけている。	3.1	3.3	B	3.4	3.3	B
⑪	教師は、生徒の話を丁寧に聞くとともに、生徒を否定したり、自説を押しつけない。	3.3	3.3	B	3.5	3.1	B
⑫	教師は、生徒が考え行動する機会を作り、働きかけている。	3.3	3.4	B	3.6	3.2	B
⑬	学校は、生徒会活動の取組を支援したり、生徒会役員以外の生徒を啓発したりしている。	3.1	3.3	B	3.6	3.1	B
⑭	学校は、地域貢献やボランティア活動をする生徒の取組を支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	3.1	3.4	B	3.6	3.1	B
⑮	学校は、保護者と連携し、教育活動を行っている。	/			3.2	3.2	B

令和5年度 学校評価について

県立阪神昆陽高等学校

■今年度について

本校の教育目標に基づき、令和3年度から生徒・保護者ともに継続して実施している。また、令和4年度の回答率が生徒65.0%、保護者2.0%と特に保護者の回答率が 顕著に低かったことから、回答方法にORコードを導入した結果、回答率が生徒66.0%、保護者26.0%（+24.0%）と大幅に改善した。

■生徒・保護者アンケートについて

生徒の回答は、昨年度は14の質問項目全てがB評価であったが、今年度は3つがA評価に向上した。A評価の項目からは、授業の目標やねらいを事前に丁寧な説明を受けることで、ゴールを見据えて、理通しをもって授業に望んでいる。また、「ノーマライゼーション」や「交流及び共同学習」に全ての入学生が取り組むことで、授業はもちろん、地域でのボランティア、進路行事や「こやっこフェスティバル（体育祭・文化祭）」などの特別支援学校との学校行事の共同開催などを通して交流を自然な形で体験的に学び、実践的な技能等を学んでいる成果であると思われ、本校の特徴的な取り組みが浸透している結果であると考えられる。

また、保護者の回答では、「生徒の理解に合わせた授業を行っている」、「地域等の外部人材を積極的に招き、様々な学ぶ機会を提供している」の2つで特に評価が高く、生徒と保護者の間に学校生活に関する話題を共有できていることがうかがえる。

■学校評議員より

- ・生徒の自己肯定感について、昨年度との比較で向上しており、普段の授業やそれ以外の場面でも生徒の内面理解等の実態把握、自主性の尊重などに基づいて、成功体験を積み重ねる経験が行えていることがわかる。また、授業が好きになる＝学習へのモチベーション上昇だけに留まらず、「自信が持てる」「自分が好きになる」など、「成長を実感できる」仕掛けづくりについて、今後は個々の教員に留まらず組織的に行ってほしい。
- ・全国的に見てもほかに類を見ない先進的な取組を行っていることについて、生徒や保護者は勿論のこと、様々な形でさらなる情報発信の充実が必要ではないか。
- ・高等学校と特別支援学校の両校教員が平素から交流を図れる機会を設け、教員同士の連携による共通理解に基づいた授業や行事の実施により、魅力・特色ある学校づくりに繋げてほしい。

■来年度に向けて

- ・今回の結果について教員が意見交換する機会を設け、学校の目標に基づき、諸課題や育てたい生徒像の共有を図り、評価項目の精選や再構築題を行う。
- ・今後、学校内に留まらず、様々な分野の教育リソース活用について、校訓「日常実践」のもと、地域と連携した体系的・発展的な取り組みとして実施できるよう検討を重ねることで、生徒のより一層の自尊感情・自己有用感・自己効力感の醸成を図る。

兵庫県立阪神昆陽高等学校 令和5年度 行動・実践目標評価

理念

阪神昆陽の両校がともに助け合って生きていくことを実践的に学ぶ機会を設定し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校をめざす。

教育目標

- A 生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる多部制単位制高等学校として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む。
- B 人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基礎に、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成する。
- C 阪神昆陽特別支援学校が同一敷地に設置されたメリットを最大限に生かして交流及び共同学習を推進し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展する礎となる学校をめざす。また、両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。
- D 学校評価員制度や高校生ふるさと貢献活動事業、特別支援学校交流・体験チャレンジ事業などを活用して、伊丹市池尻地区や尼崎市西昆陽地区など、学校周辺の地域と連携した教育活動を推進し、地域に開かれた、地域に愛される学校をめざす。
- E 「教育は人なり」という言葉があるように、両校の教職員は、教育の専門家としての使命感と高い倫理性を保持し、豊かな人間性の涵養に努める。また、専門性と実践的指導力の向上や、社会の変化に対応した教育観を培うことをめざして、研究と修養に努める。

評価点：十分できている=4、おおむねできている=3、あまりできていない=2、できていない=1
 総合評価：A：達成できている (3.5<A≤4.0) B：できている (3.0<B≤3.4) C：不十分である (1.0<C≤2.9)

*行動指標として複数の具体例を示しています。その一つ一つに当てはまるか否かではなく、指標を参考にして実践目標に対する自己評価を総合的にご判断ください。

	評価の観点	実践目標	No.	行動指標	関係する教育目標	R4		R5		増減
I 理念・経営方針・重点方針	円滑な学校運営	学校の理念、及び基本方針を理解している。	①	・自分の業務を、学校の理念・方針の中に位置づけることができる。 ・学校の理念・方針をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A, B C, D E	3.0	B	3.2	B	0.1
		自分が所属している部・年次の経営目標を理解している。	②	・自分の業務を、部・年次の目標・方針の中に位置づけることができる。 ・部・年次の目標をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A, B C, D E	3.0	B	3.3	B	0.2
	勤務時間の適正化・教員としての資質向上	働きがいのある学校づくりを実践している。	③	・生徒と向き合う時間を確保するために、業務改善に取り組み、メリハリある勤務に努めている。	E	3.3	B	3.2	B	△0.1
		人間性と教育観の涵養に努め、教員としての資質向上を図っている。	④	・専門性を高める研究、ボランティア、読書、スポーツ、旅行など、人間性を豊かにし、資質向上につながる時間を作っている。	E	3.0	B	3.2	B	0.2
	危機管理体制の整備	本校の危機管理体制、いじめ防止基本方針を理解している。	⑤	・危機管理マニュアルが適切に保管され、自分の関係する部分はおおむね理解できている。 ・いじめの未然防止やいじめが認知された際に、基本方針に沿った対応ができる。 ・様々な研修を通じて学んだことが、生徒・保護者対応等の初期対応に生かしている。	B, D	3.0	B	3.1	B	0.1
		日頃より関係機関との連携を密にし、様々な危機に対応できる体制を整えている。	⑥	・特別な支援、あるいは指導を要するケースについて、関係機関との情報共有(報連相)を心掛けている。	A, C	3.3	B	3.3	B	—

評価の観点		実践目標	No.	行動指標	関係する 教育目標	R 4	R 5	増減	
Ⅱ 魅力ある学校・特色ある学校への取組	授業	授業規律の確保に努めている。	落ち着いた授業を行うため、ルールやマナーを生徒に周知徹底させる。	①	・授業で不必要な時に、スマホを触っている生徒に対してねばり強く指導を行うことを重点とする。	A, E	3.1 B	3.3 B	0.2
		生徒の力を多面的に評価することに努めている	全科目定期考査廃止による評価について分析し、方法を検討する。	②	・評価の観点や評価基準を検討し、生徒に示すとともに、中学校教員にも説明をしている。	A, E	3.3 B	2.8 C	△0.5
		授業力の向上に努めている。	大学・短大、専門学校、就職など、個々の進路実現のため生徒のニーズに合わせた授業を行う。	③	・生徒の理解度や興味・関心、進路目標を踏まえ、個別最適化に向けた授業を行っている。	A, C, E	3.1 B	3.2 B	0.1
	進級・レジリエンス	特別な支援を要する生徒に対する本校の取り組みを理解している。	通級による指導、自殺防止の取り組み等を理解し、実践する。	④	・高校における特別な支援の必要性を理解し、研修を活用している。 ・特別支援学校と連携し、困難さを感じている生徒に対する支援に取り組んでいる。	A, B, C, D	2.9 C	3.0 B	0.1
	特別支援学校との連携	学校設定教科「共生社会と人間」を適切に実施している。	ノーマライゼーションの進展に寄与する人間観、社会観を醸成する。	⑤	・特別支援学校、地域の人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を設定している。 ・外部機関と連携して授業を進め、実社会で学ぶ機会を設定している。	A, B, C, D	2.9 C	2.9 C	—
		交流及び共同学習を適切に実施している。	授業、行事等、学校教育活動の様々な場面で、両校の生徒がともに活動する機会を設定する。	⑥	・共同の学習活動に向け、両校の担当者が定期的な打ち合わせ、情報共有を行っている。	A, C, D	2.9 C	3.0 B	0.1
		高校・特別支援学校両校の取り組みを発信している。	両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。	⑦	・両校の実践についてHPで情報を更新し、保護者、地域へ情報提供している。 ・SPIRIT等の記録を作成し配布する。 ・各校明会で、両校の取り組みの内容を紹介する。	A, C, D	3.0 C	3.1 B	0.1
Ⅲ 自尊感情の醸成	自己肯定感	カウンセリングマインドの視点を活かす指導で生徒や保護者対応を行っている。	他の教員と、本校の生徒指導について共通理解し、同一歩調で指導にあたる。	①	・「愛着」「信頼」「共感」により、生徒、保護者の話を丁寧に聞いている。 ・生徒の人権を尊重し、否定や自説の押しつをしないように意識している。	A, C	3.0 B	3.5 A	0.5
		生徒が自分の行動に責任を持つような取組を行っている。	生徒が自ら考え、行動を選択できるように働きかけている。	②	・生徒が自ら考え、行動するよう働きかけ、「やればできる」が体験できる機会を作っている。	A, C	2.9 C	3.3 B	0.4
	自己効力感	生徒の多様な能力・適正・興味に即し、自ら学ぶ学習意欲を喚起している。	体系的なキャリア教育を進め生徒の進路意識を高めるとともに、必要に応じて補習、個別指導等を実施する。	③	・年次、進路指導部や部顧問とも生徒情報を共有し指導にあっている。 ・生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	A, C	3.3 B	3.3 B	—
		部活動を充実させようと努力している。	部活動の意義を理解し、生徒の活動を支援する。	④	・「いきいき運動部活動(4訂版)」をふまえて活動をおこなっている。 ・生徒の主体性、自主性を尊重した部運営を心掛けている。	A, C	3.0 B	3.3 B	0.3
	自己有用感	生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	生徒会活動を理解し、その活動を支援する。	⑤	生徒会活動について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A, D	2.9 C	2.8 C	△0.1
		生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	高校生ふるさと地域貢献活動、ボランティア活動等を理解し、その活動を支援する。	⑥	地域貢献・ボランティア活動等について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A, D	2.9 C	2.8 C	△0.1

(アンケートの概要)

- 1 実施期間 令和6年1月9日(火)～2月2日(金) 25日間
- 2 回答対象 教職員69名/70名(98.6%)